

尺の場所には西洋畫成績の肖像貳面(豎額)を上部に、風景貳面(横額)を下方に掲げ、壁面上邊貳ヶ所に英文校名の額を懸く、陳列箱には天井に英文校名の額を下げ、内部周邊には、金工、鑄造、漆工の各作品を排列し、中央に高五寸長七尺四寸幅一尺八寸の臺を作り、此臺の上の中部に飾り棚を置き、木彫、牙彫、金工、鑄造、漆工の各作品を配し、棚の兩側臺上にも、彫刻、鍍金の作品を排列せり。而して別に陳列箱の内部隣りとの間仕切にも、蒔繪、鑄造、金工、芝山象嵌の額面(各一個)を掲げ、又別に本校の狀況を知らしめんがためには、英文一覽數百部を印刷して出品配付することゝなれり。出品名左の如し。

壁面に掲ぐるもの

日本畫成績貼込額貳個(草木花鳥人物の寫生) △西洋畫成績額面四個(自畫肖像貳、風景「奈良、港」貳) △圖案成績貼込額面貳個(工藝圖案一、建築裝飾一)

陳列箱内に排列するもの

彫金龍銀製扇形梅に鶯圖名刺盆△總梨子地武藏野圖蒔繪茶箱△彫金牡丹圖額△孔雀圖蒔繪色紙箱△芝山象嵌群蝶手箱△鍍金銅製群兔置物△金地向日葵圖蒔繪小硯箱△鑄造唐草模様花瓶△彫金龍銀製樹上鴉圖名刺盆△河骨圖蒔繪手箱△彫金色金嵌入森林圖額△金地棕栢圖蒔繪文箱△香の圖裂地模様蒔繪手箱△彫刻スペイン踊子(鑄造) △木彫上代人(久斯) 置物△鍍金黃銅製上代農婦置物△彫金銀製鷺置物△鑄造鳳凰香爐△鑄造青銅鳳文香爐△彫金龍銀製雪中松圖花瓶△鑄造葡萄柘榴置物△牙彫鳩置物(二羽) △鑄造渦紋花瓶△木彫彩色絃響置物△牙彫浮世人物置物△牙彫少女置物△

彫金龍銀製出山釋迦置物△平日地巴散し蒔繪菓子器△小判地源氏繪本散し蒔繪葉卷莫入箱△花車圖蒔繪香盆△彫金龍銀製龍圖香盆△月に時鳥蒔繪香合△懸崖飛瀑圖蒔繪短冊箱△彫金鴛鴦圖卷莫箱△彫金龍銀製鍾馗圖香合

陳列箱内間仕切に懸くるもの

薄蒔金地胡蝶舞蒔繪額△鑄造雨中狸圖額△布目象嵌母の慈愛額△芝山象嵌曾子圖牙木嵌入額

関連事項

① 大礼服所持者

大正三年一月十六日、文部大臣官房秘書課長より儀式祭典等に関する総代選定上の必要から大礼服所持者について報告するよう各方面に通牒が発せられた。本校の回答によると所持者は竹内久一、海野勝珉、海野美盛、寺崎広業、古宇田実、大村西崖、白浜徴、白井雨山ら教授たちで、西洋画科では黒田清輝をはじめとして一人も所持者が無かった(大正三年文部省任復職務)。

② 東京大正博覧会

大正三年三月二十日より同年七月三十一日まで上野公園を中心会場として東京府主催の東京大正博覧会が開催され、本校教官の中にも美術部の審査に加わった人が多かった(572頁参照)。この博覧会は上野公園と不忍池畔にセセッション式や東洋式の展示館が数多く建てられ、東京府をはじめ北海道庁、二府四二県、各省官立諸学校、研究所、試験所、台湾朝鮮両総督府、関東庁、樺太庁、諸外国が出

品するといふ大規模なものであったが、美術の部門はあまり振わず、日本画で平福百穂の「鴨」(六曲半双)が、西洋画で新帰朝者太田喜二郎の「赤い日傘」、彫刻で同じく新帰朝者水谷鉄也の「スペインの踊子」などが注目されただけであった。本校としては教育芸芸館に校名額一、敷地建物平面図一、校舎および各教室写真十一を出陳した。

③ 校舎改築工事落成(口絵図1、図2参照)

明治四十年度に着工した本校の改築工事は大正三年三月三十一日を以て落成を告げ、同年四月二日の開校満二十五年記念式において落成式と一般への披露が行われた。本工事は文部省建築課が直接計画監督したものであり、落成式において柴垣文部省建築課長は工事の概要を次のように報告した。

本日東京美術学校改築工事の落成式を挙げらるゝに際し、工事施行の顛末を報告するは、小官の光榮是に過ぎざるところなり。抑本工事は、明治四十年より四十三年に至る繼續事業として豫算を公布せられ、豫算額を參拾壹萬六千八百貳拾圓と定められたり。然るに明治四十四年二月火災の爲め、更に拾壹萬七千九百九拾圓を追加し、總豫算額を四拾參萬六千八百拾圓と改定し、繼續年限を大正二年度まで延長せられたり。右豫算額中より、設備費及事務費を控除するときは、建築費豫算額は參拾四萬八千四百五拾九圓八拾錢なり。

本工事は、明治四拾年七月着手し、工藝部校舎の建築を終り、

美術部校舎の建築中、舊校舎の本館を焼失せしため、全然設計を變更するの已むを得ざるに至り、且事業繰延の爲め繼續年限を延長せられ、前後七年の歲月を経て、本年三月三十一日を以て全く竣功を告ぐるに至れり。其建築せし建物は、煉瓦造二階建百拾五坪、木造二階建一千三百六十二坪、同平家建七百八拾八坪にして、其一坪當りの工費は、美術部本館木造二階建貳百貳拾壹圓、工藝部校舎煉瓦造二階建貳百九拾貳圓、木造二階建百參拾八圓、工藝部本館及校舎木造二階建百六拾圓に相當し、又建築費の總決算額は、參拾四萬八千四百五拾參圓八拾壹錢なり。

本工事はの施行に付ては、文部技師久留正道氏建築課長として専ら其衝に當りしに明治四十四年十一月病氣の爲め退官し、小官其後任を命ぜらる。

文部技官鳥海他郎氏は、當初より工事の設計及監督に従事し、又其設計に付ては、本校教授大澤三之助、古宇田實、兩氏の援助を受けたるもの少からず。

前述の如く工事の施行七箇年の久しきに亘りたるため、最初竣功せし建物の如きは、既に修繕を要するに至りたる箇所少からざるは、落成式の舉行に際し、洵に遺憾に堪えざるところなり。

〔東京美術学校校友会月報〕第十三卷第五号、開校満二十五年紀(念号)

この大規模な改築工事の結果、構内の様相は一変し、研究、教育設備は以前より遙かに充実したもとなつた。この改築を可能にしたのは明治四十一年三月に帝國図書館の土地三七〇〇坪および煉瓦